

新旧対照表

○指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例等について

新	旧
指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例等について	指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例等について
第1 (略)	第1 (略)
第2 人員に関する基準	第2 人員に関する基準
1～2 (略)	1～2 (略)
3 機能訓練指導員	3 機能訓練指導員
同条第8項の「訓練を行う能力を有すると認められる者」とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、はり師又はきゅう師の資格を有する者（はり師及びきゅう師については、 <u>理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師又はあん摩マッサージ指圧師の資格を有する機能訓練指導員を配置した事業所で6月以上機能訓練指導に従事した経験を有する者に限る。</u> ）の資格を有する者としします。ただし、入所者の日常生活やレクリエーション、行事等を通じて行う機能訓練指導については、当該施設の生活相談員又は介護職員が兼務して行っても差し支えありません。	同条第8項の「訓練を行う能力を有すると認められる者」とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師又はあん摩マッサージ指圧師の資格を有する者としします。ただし、入所者の日常生活やレクリエーション、行事等を通じて行う機能訓練指導については、当該施設の生活相談員又は介護職員が兼務して行っても差し支えありません。
第3 設備に関する基準	第3 設備に関する基準
1～5 (略)	1～5 (略)
6	6
(1)～(3) (略)	(1)～(3) (略)
(4) 病院の療養病床転換による食堂及び機能訓練室に関する基準の緩和 一般病床、療養病床若しくは精神病床を有する病院の開設者が、当該病院の一般病床、精神病床又は療養病床を平成36年3月31日までの間に転換し、指定介護老人福祉施設を開設しようとする場合において、当該転換に係る食堂の面積は、入所者1人当たり1平方メ	(4) 病院の療養病床転換による食堂及び機能訓練室に関する基準の緩和 一般病床、療養病床若しくは精神病床を有する病院の開設者が、当該病院の一般病床、精神病床又は療養病床を平成30年3月31日までの間に転換し、指定介護老人福祉施設を開設しようとする場合において、当該転換に係る食堂の面積は、入所者1人当たり1平方メ

新	旧
<p>一トール以上を有し、機能訓練室の面積は、40平方メートル以上であればよいこととします。ただし、食事の提供又は機能訓練を行う場合において、当該食事の提供又は機能訓練に支障がない広さを確保することができるときは、同一の場所とすることができるものとします。(附則第7項)</p> <p>(5) 診療所の療養病床転換による食堂及び機能訓練室に関する基準の緩和</p> <p>一般病床又は療養病床を有する診療所の一般病床又は療養病床を平成36年3月31日までの間に転換し、指定介護老人福祉施設を開設しようとする場合において、当該転換に係る食堂及び機能訓練室については、次の基準のいずれかに適合するものであればよいこととします。(附則第8項)</p> <p>ア 食堂及び機能訓練室の面積は、それぞれ必要な広さを有するものとし、合計して入所者一人当たり3平方メートル以上としなければなりません。ただし、食事の提供又は機能訓練を行う場合において、当該食事の提供又は機能訓練に支障がない広さを確保することができるときは、同一の場所とすることができます。</p> <p>イ 食堂の面積は、入所者一人当たり1平方メートル以上を有し、機能訓練室の面積は、40平方メートル以上を有すること。ただし、食事の提供又は機能訓練を行う場合において、当該食事の提供又は機能訓練に支障がない広さを確保することができるときは、同一の場所とすることができます。</p> <p>(6) 病院及び診療所の療養病床転換による廊下幅に関する基準の緩和</p> <p>一般病床、精神病床若しくは療養病床を有する病院又は一般病床若しくは療養病床を有する診療所の一般病床、精神病床若しくは療養病床を平成36年3月31日までの間に転換し、指定介護老人福祉施設を開設しようとする場合において、当該転換に係る廊下の幅については、内法による測定で、1.2メートル以上であればよいこととします。ただし、中廊下の幅は、内法による測定で、1.6メートル以上であればよいこととします。なお、廊下の幅は、壁から測定した幅でよいこととします。(附則第9項)</p>	<p>一トール以上を有し、機能訓練室の面積は、40平方メートル以上であればよいこととします。ただし、食事の提供又は機能訓練を行う場合において、当該食事の提供又は機能訓練に支障がない広さを確保することができるときは、同一の場所とすることができるものとします。(附則第7項)</p> <p>(5) 診療所の療養病床転換による食堂及び機能訓練室に関する基準の緩和</p> <p>一般病床又は療養病床を有する診療所の一般病床又は療養病床を平成30年3月31日までの間に転換し、指定介護老人福祉施設を開設しようとする場合において、当該転換に係る食堂及び機能訓練室については、次の基準のいずれかに適合するものであればよいこととします。(附則第8項)</p> <p>ア 食堂及び機能訓練室の面積は、それぞれ必要な広さを有するものとし、合計して入所者一人当たり3平方メートル以上としなければなりません。ただし、食事の提供又は機能訓練を行う場合において、当該食事の提供又は機能訓練に支障がない広さを確保することができるときは、同一の場所とすることができます。</p> <p>イ 食堂の面積は、入所者一人当たり1平方メートル以上を有し、機能訓練室の面積は、40平方メートル以上を有すること。ただし、食事の提供又は機能訓練を行う場合において、当該食事の提供又は機能訓練に支障がない広さを確保することができるときは、同一の場所とすることができます。</p> <p>(6) 病院及び診療所の療養病床転換による廊下幅に関する基準の緩和</p> <p>一般病床、精神病床若しくは療養病床を有する病院又は一般病床若しくは療養病床を有する診療所の一般病床、精神病床若しくは療養病床を平成30年3月31日までの間に転換し、指定介護老人福祉施設を開設しようとする場合において、当該転換に係る廊下の幅については、内法による測定で、1.2メートル以上であればよいこととします。ただし、中廊下の幅は、内法による測定で、1.6メートル以上であればよいこととします。なお、廊下の幅は、壁から測定した幅でよいこととします。(附則第9項)</p>

新	旧
<p>第4 運営に関する基準</p> <p>1 内容及び手続の説明及び同意（条例第6条）</p> <p>指定介護老人福祉施設は、入所者に対し適切な指定介護福祉施設サービスを提供するため、その提供の開始に際し、あらかじめ、入所申込者又はその家族に対し、当該指定介護老人福祉施設の運営規程の概要、従業員の勤務体制、事故発生時の対応、苦情処理の体制、<u>提供するサービスの第三者評価の実施状況（実施の有無、実施した直近の年月日、実施した評価機関の名称、評価結果の開示状況）</u>等の入所申込者がサービスを選択するために必要な重要事項を記載したわかりやすい説明書やパンフレット等の文書を交付して懇切丁寧に説明を行い、当該施設から指定介護福祉施設サービスの提供を受けることについて同意を得なければならないこととしたものです。なお、当該同意については、入所者及び指定介護老人福祉施設双方の保護の立場から書面によって確認することが望ましいものとします。</p> <p>2～8 （略）</p> <p>9 指定介護福祉施設サービスの取扱方針</p> <p>(1)～(2) （略）</p> <p>(3) <u>同条第6項第1号の「身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」（以下「身体的拘束適正化検討委員会」という。）とは、身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会であり、幅広い職種（例えば、施設長（管理者）、事務長、医師、看護職員、介護職員、生活相談員）により構成するものとします。また、構成メンバーの責務及び役割分担を明確にするとともに、専任の身体的拘束等の適正化対応策を担当する者を決めておくことが必要です。</u></p> <p><u>なお、身体的拘束適正化検討委員会は、運営委員会など他の委員会と独立して設置・運営することが必要ですが、事故防止委員会及び感染対策委員会については、関係する職種等が身体的拘束適正化検討委員会と相互に関係が深いと認められることから、これと一体的に設置・運営することも差し支えないこと及び身体的拘束適正化検討委員会の責任者はケア全般の責任者であることが望ましいこととします。</u></p> <p><u>また、身体的拘束適正化検討委員会には、第三者や専門家を活用す</u></p>	<p>第4 運営に関する基準</p> <p>1 内容及び手続の説明及び同意（条例第6条）</p> <p>指定介護老人福祉施設は、入所者に対し適切な指定介護福祉施設サービスを提供するため、その提供の開始に際し、あらかじめ、入所申込者又はその家族に対し、当該指定介護老人福祉施設の運営規程の概要、従業員の勤務体制、事故発生時の対応、苦情処理の体制等の入所申込者がサービスを選択するために必要な重要事項を記載したわかりやすい説明書やパンフレット等の文書を交付して懇切丁寧に説明を行い、当該施設から指定介護福祉施設サービスの提供を受けることについて同意を得なければならないこととしたものです。なお、当該同意については、入所者及び指定介護老人福祉施設双方の保護の立場から書面によって確認することが望ましいものとします。</p> <p>2～8 （略）</p> <p>9 指定介護福祉施設サービスの取扱方針</p> <p>(1)～(2) （略）</p> <p>(新設)</p>

新	旧
<p><u>ることが望ましく、その方策として、精神科専門医等の専門医の活用等が考えられます。</u></p> <p><u>指定介護老人福祉施設が、報告、改善のための方策を定め、周知徹底する目的は、身体的拘束等の適正化について、施設全体で情報共有し、今後の再発防止につなげるためのものであり、決して従業者の懲罰を目的としたものではないことに留意することが必要です。</u></p> <p><u>具体的には、次のようなことを想定しています。</u></p> <p><u>ア 身体的拘束等について報告するための様式を整備すること。</u></p> <p><u>イ 介護職員その他の従業者は、身体的拘束等の発生ごとにその状況、背景等を記録するとともに、アの様式に従い、身体的拘束等について報告すること。</u></p> <p><u>ウ 身体的拘束適正化検討委員会において、イにより報告された事例を集計し、分析すること。</u></p> <p><u>エ 事例の分析に当たっては、身体的拘束等の発生時の状況等を分析し、身体的拘束等の発生原因、結果等を取りまとめ、当該事例の適正性と適正化策を検討すること。</u></p> <p><u>オ 報告された事例及び分析結果を従業者に周知徹底すること。</u></p> <p><u>カ 適正化策を講じた後に、その効果について評価すること。</u></p> <p><u>(4) 同条第6項第2号の指定介護老人福祉施設が整備する「身体的拘束等の適正化のための指針」には、次のような項目を盛り込むこととします。</u></p> <p><u>ア 施設における身体的拘束等の適正化に関する基本的考え方</u></p> <p><u>イ 身体的拘束適正化検討委員会その他施設内の組織に関する事項</u></p> <p><u>ウ 身体的拘束等の適正化のための職員研修に関する基本方針</u></p> <p><u>エ 施設内で発生した身体的拘束等の報告方法等の方策に関する基本方針</u></p> <p><u>オ 身体的拘束等発生時の対応に関する基本方針</u></p> <p><u>カ 入所者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</u></p> <p><u>キ その他身体的拘束等の適正化の推進のために必要な基本方針</u></p> <p><u>(5) 同条第6項第3号の「介護職員その他の従業者に対する身体的拘束等適正化のための研修」の内容としては、身体的拘束等の適正化の基</u></p>	<p>(新設)</p> <p>(新設)</p>

新	旧
<p><u>礎的内容等の適切な知識を普及・啓発するとともに、当該指定介護老人福祉施設における指針に基づき、適正化の徹底を行うものとします。</u></p> <p><u>職員教育を組織的に徹底させていくためには、当該指定介護老人福祉施設が指針に基づいた研修プログラムを作成し、定期的な教育（年2回以上）を開催するとともに、新規採用時には必ず身体的拘束等の適正化の研修を実施することが重要です。</u></p> <p><u>また、研修の実施内容についても記録することが必要です。</u></p> <p><u>なお、研修の実施は、職員研修施設内での研修で差し支えないこととします。</u></p> <p>10 施設サービス計画の作成</p> <p>(1) ～ (3) (略)</p> <p>(4) 課題分析における留意点(第4項)</p> <p>計画担当介護支援専門員は、アセスメントに当たっては、必ず入所者及びその家族に面接を行わなければなりません。この場合において、入所者やその家族との間の信頼関係、協働関係の構築が重要であり、計画担当介護支援専門員は、面接の趣旨を入所者及びその家族に対して十分に説明し、理解を得なければなりません。なお、このため、計画担当介護支援専門員は面接技法等の研鑽に努めることが重要です。<u>また、家族への面接については、幅広く課題を把握する観点から、テレビ電話等の通信機器等の活用により行われるものを含むものとします。</u></p> <p>(5) ・ (6) (略)</p> <p>(7) 施設サービス計画原案の説明及び同意(第7項)</p> <p>施設サービス計画は、入所者の希望を尊重して作成されなければなりません。このため、計画担当介護支援専門員に、施設サービス計画の作成に当たっては、これに位置付けるサービスの内容を説明した上で文書によって入所者の同意を得ることを義務づけることにより、サービスの内容への入所者の意向の反映の機会を保障しようとするものです。</p> <p>なお、当該説明及び同意を要する施設サービス計画の原案とは、</p>	<p>10 施設サービス計画の作成</p> <p>(1) ～ (3) (略)</p> <p>(4) 課題分析における留意点(第4項)</p> <p>計画担当介護支援専門員は、アセスメントに当たっては、必ず入所者及びその家族に面接を行わなければなりません。この場合において、入所者やその家族との間の信頼関係、協働関係の構築が重要であり、計画担当介護支援専門員は、面接の趣旨を入所者及びその家族に対して十分に説明し、理解を得なければなりません。なお、このため、計画担当介護支援専門員は面接技法等の研鑽に努めることが重要です。</p> <p>(5) ・ (6) (略)</p> <p>(7) 施設サービス計画原案の説明及び同意(第7項)</p> <p>施設サービス計画は、入所者の希望を尊重して作成されなければなりません。このため、計画担当介護支援専門員に、施設サービス計画の作成に当たっては、これに位置付けるサービスの内容を説明した上で文書によって入所者の同意を得ることを義務づけることにより、サービスの内容への入所者の意向の反映の機会を保障しようとするものです。</p> <p>なお、当該説明及び同意を要する施設サービス計画の原案とは、</p>

新	旧
<p>いわゆる施設サービス計画書の第1表及び第2表(「介護サービス計画書の様式及び課題分析標準項目の提示について」(平成11年11月12日老企第29号厚生省老人保健福祉局企画課長通知)に示す標準様式を指す。)に相当するものを指すものです。</p> <p>また、施設サービス計画の原案について、入所者に対して説明し、同意を得ることを義務づけているが、必要に応じて入所者の家族に対しても説明を行い、同意を得る<u>(通信機器等の活用により行われるものを含む。)</u>ことが望ましいものとします。</p> <p>11 ～18 (略)</p> <p>19 緊急時等の対応</p> <p><u>条例第24条の2は、入所者の病状の急変等に備えるため、施設に対してあらかじめ配置医師による対応その他の方法による対応方針を定めなければならないことを義務付けるものです。</u></p> <p><u>対応方針に定める規定としては、例えば、緊急時の注意事項や病状等についての情報共有の方法、曜日や時間帯ごとの医師との連携方法や診察を依頼するタイミング等があげられます。</u></p> <p>20～22 (略)</p> <p>23 運営規程</p> <p>条例第28条は、指定介護老人福祉施設の適正な運営及び入所者に対する適切な指定介護福祉施設サービスの提供を確保するため、同条第1号から第8号までに掲げる事項を内容とする規程を定めることを指定介護老人福祉施設ごとに義務づけたものですが、特に次の点に留意するものとします。</p> <p>(1)～(3) (略)</p> <p>(4) 非常災害対策(第7号)</p> <p><u>25の非常災害に関する具体的な計画を指すものであること。</u></p> <p>(5) その他施設の運営に関する重要事項(第8号)</p> <p>入所者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合に身体的拘束等を行う際の手続、従業者への研修体制、条例第33条第1項の協力病院、従業者及び従業者であった者の秘密保持、事故発生時の対応、苦情処理に係る体制について定めておくことが望まし</p>	<p>いわゆる施設サービス計画書の第1表及び第2表(「介護サービス計画書の様式及び課題分析標準項目の提示について」(平成11年11月12日老企第29号厚生省老人保健福祉局企画課長通知)に示す標準様式を指す。)に相当するものを指すものです。</p> <p>また、施設サービス計画の原案について、入所者に対して説明し、同意を得ることを義務づけているが、必要に応じて入所者の家族に対しても説明を行い、同意を得ることが望ましいものとします。</p> <p>11～18 (略)</p> <p>(新設)</p> <p>19～21 (略)</p> <p>22 運営規程</p> <p>条例第28条は、指定介護老人福祉施設の適正な運営及び入所者に対する適切な指定介護福祉施設サービスの提供を確保するため、同条第1号から第7号までに掲げる事項を内容とする規程を定めることを指定介護老人福祉施設ごとに義務づけたものですが、特に次の点に留意するものとします。</p> <p>(1)～(3) (略)</p> <p>(4) 非常災害対策(第6号)</p> <p><u>24の非常災害に関する具体的な計画を指すものであること。</u></p> <p>(5) その他施設の運営に関する重要事項(第7号)</p> <p>入所者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合に身体的拘束等を行う際の手続、従業者への研修体制、条例第33条第1項の協力病院、従業者及び従業者であった者の秘密保持、事故発生時の対応、苦情処理に係る体制について定めておくことが望まし</p>

新	旧
<p>い。  <u>24～33</u> (略)</p> <p>第5 ユニット型指定介護老人福祉施設  1～2 (略)  3 設備に関する要件 (条例第45条)  (1)～(3) (略)  (4) 居室(第1号ア)  ア～ウ (略)  エ 居室の床面積等  (ア) (略)  (イ) <u>ユニット型個室的多床室</u></p> <p>ユニットに属さない居室を改修してユニットを造る場合であり、床面積は、10.65平方メートル以上(居室内に洗面設備が設けられているときはその面積を含み、居室内に便所が設けられているときはその面積を除く。)とすること。この場合にあっては、入居者同士の視線が遮断され、入居者のプライバシーが十分に確保されていれば、天井と壁との間に一定の隙間が生じていても差し支えない。</p> <p>壁については、家具等のように可動のもので室内を区分しただけのものは認められず、可動でないものであって、プライバシーの確保のために適切な素材であることが必要である。</p> <p>また、居室であるためには、一定程度以上の大きさの窓が必要であることから、多床室を仕切って窓のない居室を設けたとしても<u>個室的多床室</u>としては認められない。</p> <p>なお、居室への入口が、複数の居室で共同であったり、カーテンなどで仕切られているに過ぎないような場合には、十分なプライバシーが確保されているとはいえず、<u>個室的多床室</u>としては認められないものである。</p> <p>また、入居者へのサービス提供上必要と認められる場合に2人部屋とするときは21.3平方メートル以上とすること。</p>	<p>い。  <u>23～32</u> (略)</p> <p>第5 ユニット型指定介護老人福祉施設  1～2 (略)  3 設備に関する要件 (条例第45条)  (1)～(3) (略)  (4) 居室(第1号ア)  ア～ウ (略)  エ 居室の床面積等  (ア) (略)  (イ) <u>ユニット型準個室</u></p> <p>ユニットに属さない居室を改修してユニットを造る場合であり、床面積は、10.65平方メートル以上(居室内に洗面設備が設けられているときはその面積を含み、居室内に便所が設けられているときはその面積を除く。)とすること。この場合にあっては、入居者同士の視線が遮断され、入居者のプライバシーが十分に確保されていれば、天井と壁との間に一定の隙間が生じていても差し支えない。</p> <p>壁については、家具等のように可動のもので室内を区分しただけのものは認められず、可動でないものであって、プライバシーの確保のために適切な素材であることが必要である。</p> <p>また、居室であるためには、一定程度以上の大きさの窓が必要であることから、多床室を仕切って窓のない居室を設けたとしても<u>準個室</u>としては認められない。</p> <p>なお、居室への入口が、複数の居室で共同であったり、カーテンなどで仕切られているに過ぎないような場合には、十分なプライバシーが確保されているとはいえず、<u>準個室</u>としては認められないものである。</p> <p>また、入居者へのサービス提供上必要と認められる場合に2人部屋とするときは21.3平方メートル以上とすること。</p>

新	旧
<p>なお、ユニットに属さない居室を改修してユニットを造る場合に、居室が(ア)の要件を満たしていれば、ユニット型個室に分類される。</p> <p>(5)～(10) (略)</p> <p>4～8 (略)</p> <p>9 運営規程(条例第51条)</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 第4の22の(1)及び(3)から(5)までは、ユニット型指定介護老人福祉施設について準用します。この場合において、第4の22中「条例第28条」とあるのは「条例第51条」と、「同条第1号から第<u>8</u>号まで」とあるのは「同条第1号から第<u>9</u>号まで」と、同(3)中「第5号」とあるのは「第6号」と、同(4)中「第<u>7</u>号」とあるのは「第<u>8</u>号」と、同(5)中「第<u>8</u>号」とあるのは「第<u>9</u>号」と読み替えるものとします。</p> <p>10 (略)</p> <p>11 準用</p> <p>条例第54条の規定により、条例第6条から第12条まで、第14条、第16条、第19条、第21条から第27条まで及び第31条から第42条までの規定は、ユニット型指定介護老人福祉施設について準用されるもので、第4の1から6まで、8、10、13、15から22まで及び<u>25</u>から<u>33</u>までを参照してください。この場合において、第4の10の(5)のなお書きは、「なお、ここでいう指定介護福祉施設サービスの内容は、入居者が自らの生活様式や生活支援に沿って、自律的な日常生活を営むことができるように、一日の生活の流れの中で行われる支援の内容を指すものである。」と読み替えるものとします。</p> <p>第6 (略)</p>	<p>なお、ユニットに属さない居室を改修してユニットを造る場合に、居室が(ア)の要件を満たしていれば、ユニット型個室に分類される。</p> <p>(5)～(10) (略)</p> <p>4～8 (略)</p> <p>9 運営規程(条例第51条)</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 第4の22の(1)及び(3)から(5)までは、ユニット型指定介護老人福祉施設について準用します。この場合において、第4の22中「条例第28条」とあるのは「条例第51条」と、「同条第1号から第<u>7</u>号まで」とあるのは「同条第1号から第<u>8</u>号まで」と、同(3)中「第5号」とあるのは「第6号」と、同(4)中「第<u>6</u>号」とあるのは「第<u>7</u>号」と、同(5)中「第<u>7</u>号」とあるのは「第<u>8</u>号」と読み替えるものとします。</p> <p>10 (略)</p> <p>11 準用</p> <p>条例第54条の規定により、条例第6条から第12条まで、第14条、第16条、第19条、第21条から第27条まで及び第31条から第42条までの規定は、ユニット型指定介護老人福祉施設について準用されるもので、第4の1から6まで、8、10、13、15から<u>21</u>まで及び<u>24</u>から<u>32</u>までを参照してください。この場合において、第4の10の(5)のなお書きは、「なお、ここでいう指定介護福祉施設サービスの内容は、入居者が自らの生活様式や生活支援に沿って、自律的な日常生活を営むことができるように、一日の生活の流れの中で行われる支援の内容を指すものである。」と読み替えるものとします。</p> <p>第6 (略)</p>